

マルトリートメント(不適切な養育)、その実態と子どもへの影響

友田 周子 京都市児童相談所相談支援担当課長
京都市第二児童福祉センター発達相談課長

皆さんは、マルトリートメント(以下マルトリ)という言葉を知っていますか？マル=悪い、トリートメント=扱いという意味で、虐待とまでは言えない、もっと広範囲の子どもへの不適切な関わりのことです。最近、保育施設でのマルトリも報道等で目にします。マルトリは、虐待と同様に、子どもによくない影響を与えるということが、様々な研究でも明らかになっています。

マルトリには、身体的マルトリ、心理的マルトリ、性的マルトリ、ネグレクト等があります。身体的なものは、悪いことだと認識しやすいのですが、暴言などの心理的なマルトリは、意識しにくいように思います。しかし、言葉だけのマルトリであっても、子どもに大きな影響を与えます。マルトリの始まった時期、期間、程度、内容、頻度、受けた子どもの性格・知的能力・性別・特性等によって、どのような影響が表れるかは、一概には言えません。幼い頃のマルトリは、ずっと心に残っていて、いつ症状が出てくるかはわかりません。

マルトリの影響は、身体的影響、知的発達への影響、情緒的影響、対人関係への影響、脳へのダメージ等が挙げられます。その中でも、特に覚えておいてほしいのが『虐待順応性反応』です。虐待やマルトリを受けていた子どもは、優しくされたり幸せになったりすることに不安を感じ、わざと怒られるような行動をとってしまうのです。また、児童精神科の杉山先生は、虐待やマルトリを『第4の発達障害』と定義し、子どもの多動や落ち着きのなさといった行動を ADHD かどうかと鑑別診断するよりも、虐待やマルトリを受けた子どもには発達障がいのような症状があると考えて対応していこう、と提唱されています。そして、かなり衝撃的ですが、マルトリを受けた子どもに、脳の萎縮が起こっていることが検証されています。体罰による前頭前野(理性や人間ならではの高度機能を司る)の萎縮や暴言による聴覚野の変形、強いストレスによる扁桃核(記憶や情動を司る)の変形、大脳全体の体積の減少等が確認されています。

このような子どもたちへの関わり方のポイントは、①子どもの話に耳を傾ける、②安定・一貫した態度で接する、③肯定的な関わり・現状をほめる(認める)、が挙げられます。保護者自身が受け止めてもらえず逆境的な育ちをしていることが多いため、この3つのポイントで対応することで、回復につながることもあります。マルトリを受けている子どもは、気を引くために嘘をついたり、「試し行動」で大人を挑発することもあります。子どもがそう思ったという事実、そう言いたかった気持ちを「あなたはそう思ったんだね」と受け止めます。一歩踏みとどまり、受容的な関わりをすることが、子どもの回復につながります。また、否定語が多くならないよう、肯定的な言い方を意識しましょう。叱るよりほめる方が多かったかと思えば、自分を振り返ったり、自分の育ちや考え方の傾向を意識することも対人援助職として必要なことです。

虐待やマルトリは、大変難しい問題ですが、支援者が知識を持って、寄り添う気持ちで関わることで、いつか子どもや保護者のレジリエンス(回復する力)につながると思います。毎日通い、長い時間を過ごす園での生活や関わりは、子どもの発達に大きな影響力があり、子どもがマルトリの影響から回復する過程においての力となると感じています。